第3章 まちづくりの将来像

本章では、前章に整理した現状・課題をふまえ、まちづくりの目標、基本方針及び将来目指すまちの基本構造を定めて、向こう 20 年先を見据えた 10 年後のまちづくりの将来像を示します。

3.1 まちづくりの目標

「安曇野の豊かな歴史や文化、自然環境・景観を守り、暮らしやすさと産業発展のバランスが取れた田園都市づくり」という本市建設の目的を市民の暮らしの発展や産業振興の視点から捉え、まちづくりの目標を定めます。

山岳と田園が育むよさを大切にし、 暮らしやすさをみんなで共有・継承できるまち



美しい山岳と豊かな田園、その良さにひかれて暮らす人·訪れる人、 その環境を活かし、働く人等、外から人が多く集まることで発展して きた本市は、いまある良好な環境を大切にしながら、活かし育ててい く「発展の好循環」をこれからも継続できるまちを目指します。

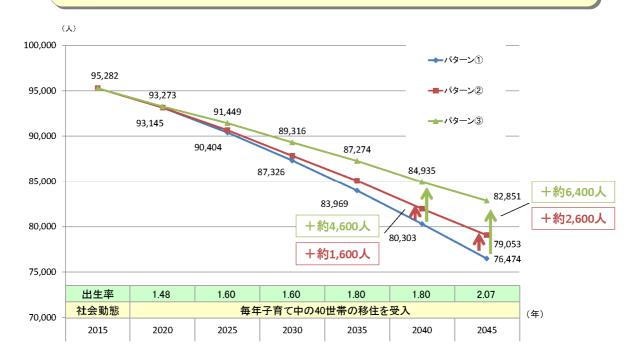
3.2 将来人口のあり方

本市の人口は、近年の少子高齢化の影響により減少傾向に入っており、今後もこの減少は続いていくものと予測されています。

まちづくりの目標を実現するためには、一定の人口を維持していくことは必要不可欠で、安曇野市人口ビジョン [第2版] では、出生率の向上による自然動態の改善と移住者増等による社会動態の改善によって、人口減少に歯止めをかけ、安定的な人口規模の確保と人口構造の若返りを目指す方向性が示されています。

これをふまえ、本計画における将来人口のあり方を以下のように定めます。

良好な環境を保ちながら、この地で暮らしたい人や産業を適 正に受け入れ、できる限り人口減少の抑制を図ります。



パターン①	パターン②	パターン③
社人研推計値	社人研推計値 +自然動態改善	社人研推計値 + 自然動態改善 + 社会動態改善

自然動態改善

国の長期ビジョンにおける推計条件*を参考に、本市における出生率の推移を鑑み、出生率目標を2025年1.6、2035年1.8、2045年2.07とする。

※国の長期ビジョン(令和元年改訂版)では、「合計特殊出生率が上昇した場合」として、合計特殊出生率が2030年に1.8程度、2040年に2.07程度となった場合の推計を行っている。

社会動態改善

2020年以降、毎年子育て中の40世帯の移住を受け入れる。

資料:安曇野市人口ビジョン「第2版]

図 自然動態・社会動態が改善した場合の人口推計

3.3 まちづくりの基本方針

前項に示したまちの将来像、将来人口のあり方、さらには前章2.5に示した今後のまちづくりの方向性をふまえ、まちづくりの基本方針を5つ定め、これらに沿って将来のまちの構造を描きます。

山岳と田園が育むよさを大切にし、暮らしやすさをみんなで共有・継承できるまち

現状・課題、社会情勢の変化や社会の要請 をふまえたまちづくりの方向性

- ●北アルプスの山並みを背景にした良好な景 観の保全・継承
- ●農地や屋敷林、里山林、人工林等の暮らし や産業に密接に関わる優良・有用な自然的 資源・資産の維持・継承
- ●持続可能な開発目標(SDGs)やゼロ・カーボン 2050 の達成への寄与
- ●将来の人口規模や年齢構成もふまえた居住 誘導と適正な立地コントロール(多様な居 住ニーズへの適切な対応)
- ●空き家や空き地等の低未利用地の適正管理 と有効活用
- ●既存の都市基盤の適切な維持管理と長寿命化、更新による機能向上
- ●駅や市街地へのアクセスのしやすさの確保
- ●地域資源を活かし、新規雇用や地域の活性 化に資する企業の受入体制の強化
- ●多様な企業の進出ニーズや働き方への対応
- ●高速道路や幹線道路などの交通網や立地条件を活かした産業振興
- ●良好な景観や環境と産業との調和
- ●多様な自然災害の頻発化·激甚化への対応 力の強化(減災の視点や、災害発生時、復 旧·復興の段階ごとの対応等)
- ●災害リスクを考慮した立地コントロールや 公共施設等の適正配置
- ●歩行者や自転車が安全かつ快適に移動できる交通環境の整備
- ●AI や IoT 等の先進的技術の有効活用
- ●水や緑、歴史·文化、景観、観光施設等、多彩な地域資源の活用
- ●良好な景観や環境の維持管理や創出に資する地縁コミュニティの継承や新たなコミュニティの創出
- ●地域住民による主体的なまちづくりの推進

良好な環境を保ちながら この地で暮らしたい人や産業の 適正な受け入れと人口減少の抑制

§方針1

雄大な山岳景観と豊かな 田園風景を未来に継承で きるまちづくり

§方針2

都市機能の秩序ある集約 と有機的な連携による持 続可能なまちづくり

§方針3

産業の継続的な発展を持 続できるまちづくり

§方針4

安全で安心して快適に過 ごせるまちづくり

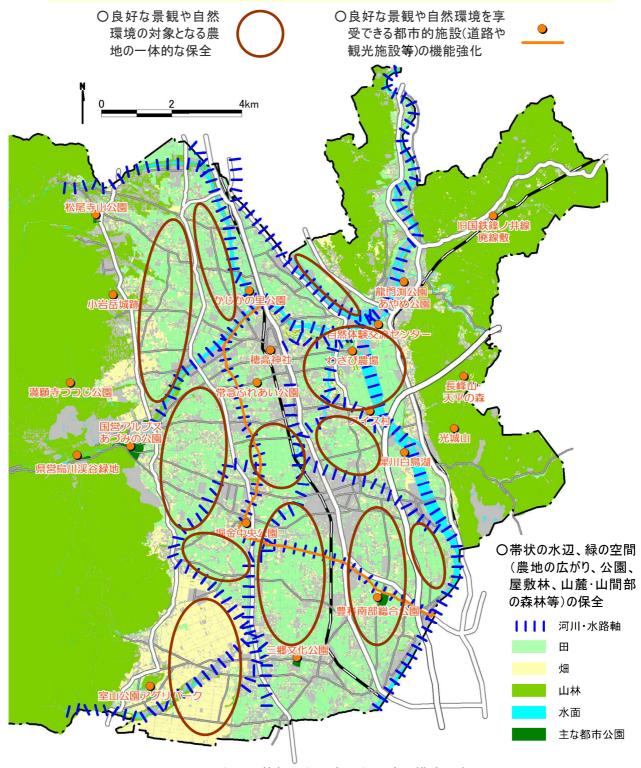
§方針5

各地域・地区の個性を活か して魅力を引き出す協働 のまちづくり

§方針1 雄大な山岳景観と豊かな田園風景を未来に継承できるまちづくり

本市は、雄大な北アルプスの山岳景観と先人たちの努力によってつくられた豊かな田園風景(農地、縦横に流れる堰や河川、屋敷林等の緑に囲まれた集落等に育まれた景観や自然環境)に恵まれています。そうした環境での比較的便利な生活のなかに、住み心地のよさを実感することができます。

したがって、良好な景観や環境に配慮するとともに、自然環境の有する多面的機能を上手に活かしながら、法令等による適正な保全を図ります。



コラム 安曇野の緑と水

■壁のように連なる緑

安曇野の良好な田園風景を構成する主な要素としては、山並みと水田の広がりが挙げられますが、その風景をより自然の風合いに引き立てているのが、屋敷林 や河畔林、水路沿いの木々等からなる「緑の連なり」です。

水田の広がりだけでは、奥に広がる集落や建物、市街地等が見えてしまいますが、この「緑の連なり」が人工物を程よく隠すことによって、背景の山並みとなじむ、調和のとれた景観をつくり出しています。

安曇野の発展を支えてきた田園風景をまちづくりに活かしていくためにも、「緑の連なり」に配慮した環境形成が重要になります。



緑の連なり

■市内をめぐる水

安曇野の田畑を潤す水は、先人たちの努力で、市内を巡るように整備されてきたものです。田園に限らず、市街地内を貫く形で水が流れており、場所によっては、川沿いの道路が市民の散歩や通学のルートとして活用されています。

このような堰等の流れに沿った緑も含めて、一体的に保全・活用したまちづくりを進めることで、市民の住み心地のよさをより高めることにより、来訪者にアピールできる資源になります。

また、拾ケ堰沿いには自転車道路が整備されており、既存の公園等とのつながりをもった環境づくりが求められています。

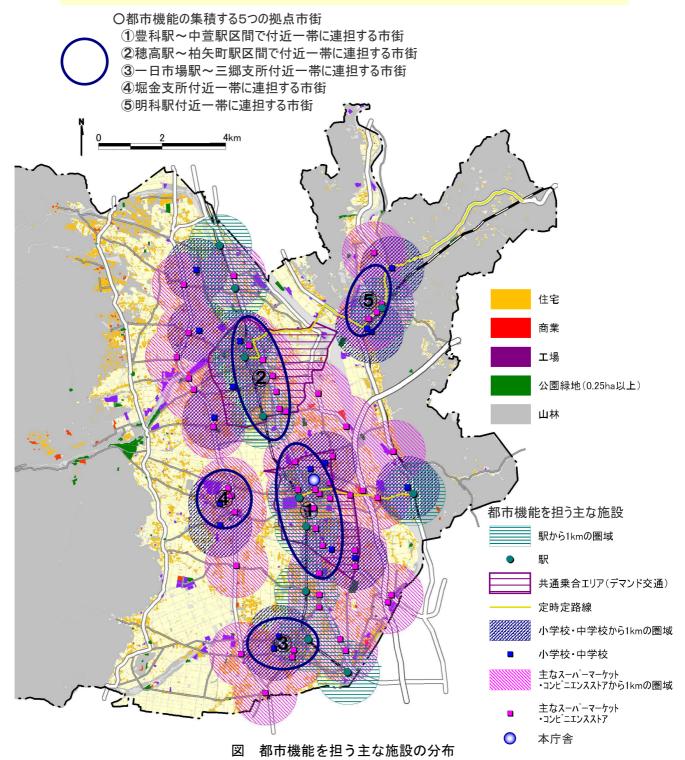


今後のまちづくりにおいて、上記に示す緑の連なりや水のつながりを活かして、まちの基盤となる良好な環境の構成要素を前ページに明記しました。

§ 方針2 都市機能の秩序ある集約と有機的な連携による持続可能なまちづくり

人口減少時代を迎え、今後のまちづくりでは、既存市街や集落の外側への拡散防止のみならず、内側の低未利用地の増加や将来の低密度化に対応して、既存の都市基盤や土地の有効活用と適正な維持管理を図り、できるだけコンパクトに都市機能を集約していくことが求められます。

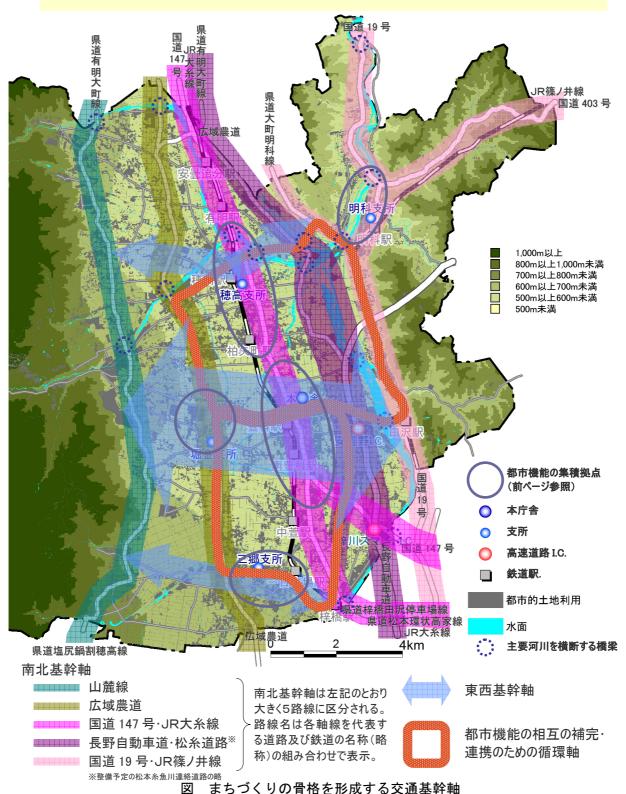
したがって、とくに駅や学校、主要な買い物拠点等の都市機能を担う主要 な施設が集積する5つの拠点市街への居住人口の集約を重視し、各市街で不足する機能は道路·交通網や情報ネットワークを強化して、相互に補完し合える関係を築き、持続可能なまちづくりの推進を図ります。



前ページに示した都市機能を集積する5つの拠点市街の有機的な連携を図るために、道路と鉄道を交通基幹軸として以下のように位置付け、まちづくりの骨格とします。

南北方向は、広域交通上も主要な役割を果たしている道路5路線と鉄道2路線を基幹軸とし、東西方向は、両端を明確に結ぶ既存路線が少ないなかで、 拠点市街を介して南北をつなぐ3路線を基幹軸とします。

さらに、これら南北東西の基幹軸のうち5つの拠点市街をつなぐ路線を「都市機能の相互の補完・連携のための循環軸」として位置付け、災害時にも有効に機能するよう、重点的な機能強化を図ります。



§方針3 産業の継続的な発展を持続できるまちづくり

本市では、農林水産業、商工業、観光業等の各産業が、安曇野の魅力と深く結び付いてバランスよく発展してきました。しかし近年は、担い手不足や高齢化等の課題に直面している事業者も多く、特に農業については経営基盤強化や経営持続化への更なる支援や、優良農地の保全が必要となっています。

また、将来の目標人口の達成や地域経済の活性化、市民の暮らしや市財政の安定化を図るためには、特産品のブランド化や既存事業の高付加価値化といった競争力の強化や、新たな企業や事業所の誘致が求められています。

誘致にあたっては、既存の、あるいは松本糸魚川連絡道路等今後整備が予定されている幹線道路等のインフラを活かし、美しい田園風景や農林水産業と調和が図られる場所に、新たな事業用地の確保・誘導を進める必要があります。

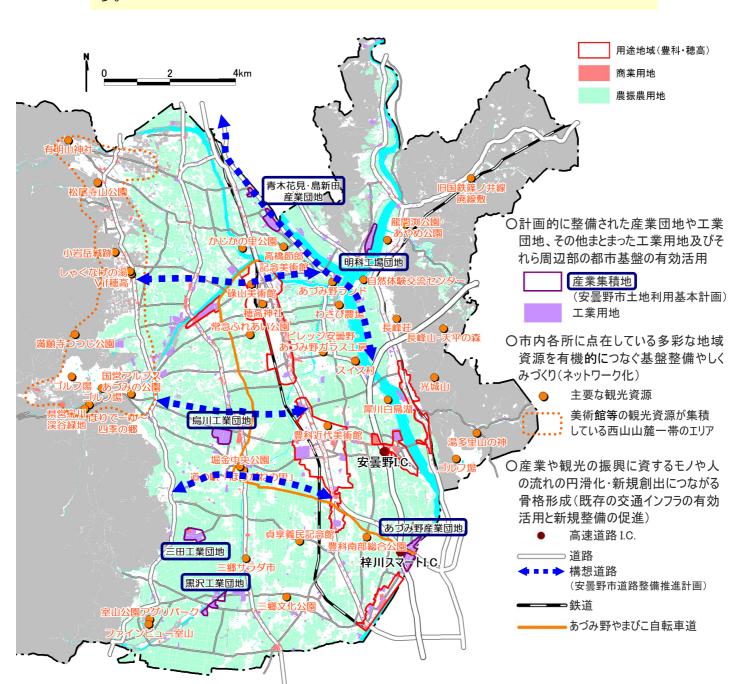


図 産業や観光の振興のための都市基盤・施設の活用・整備の展開

< 指針>新たな事業用地の確保·誘導に対する市の考え方

新たな事業用地については、一定の都市基盤整備の整った既存の産業団地、若しくは工業団地又はこれらの隣接地に確保・誘導を図ることが、本市の都市づくりにおける基本的な考え方(方針)です。一方で、実際にこの方針に沿った場所に事業用地を確保・誘導するための適地不足から、企業等の進出ニーズに十分応えられない場合は、田園産業都市づくりの可能性を摘んでしまうことにもなりかねません。

また、松本糸魚川連絡道路のルート帯決定に伴い、産業振興の観点からこの整備効果を活かした都市づくりを 考えるところですが、松本糸魚川連絡道路やこれに関連する道路の具体的な進捗にはまだ時間を要するところで す。

以上のことをふまえて、今後産業団地、工業団地等事業用地として考えるゾーンを検討していくこととし、今回の改正にあたっては特に規模の大きな事業用地を念頭に、その用地の確保・誘導に際し、都市づくりの観点から留意すべき視点とこれに基づく判断の目安を以下に示します。

視点1 良好な田園環境や豊かな自然環境との調和

- ①田園環境との調和が図られる場所であること。とくに良好な田園風景の視点場は避け、その 視対象となる場合は、形態的な面も含めて景観に配慮した事業計画であること。
- ②文化的、歴史的環境、あるいは保護されるべき自然環境を有する場所でないこと。

視点2 既存インフラの有効活用や高速交通ネットワークへのアクセス

- ①既存の産業用地や工業団地等の産業集積地又はこれらに隣接した場所であること。隣接した場所でない場合は、幹線道路に隣接し、かつ、以下②の要件を満たす場所であること。
- ②高速道路(高規格道路)の出入口へのアクセスが容易(目安:10分圏域)であること。並びに既存の、あるいは新規に整備が見込まれるアクセス道路が片側1車線以上で、大型自動車の通行に支障がないこと。また事業用地周辺で、歩行者等の安全が確保されること。

視点3 暮らしとの調和及び周辺住民の理解

①住環境への影響が少ない場所であること。あるいは住環境に配慮した事業計画であること。 また、暮らしとの調和について周辺住民の理解が得られる事業計画であること。

視点4 他の法令等との整合

①農林水産業の振興のための法令·施策·事業等、他法令等との整合が図られる場所であること。

<参考>第2次安曇野市工業振興ビジョンにおける工業振興の方針(一部抜粋・要約)

■基本目標

豊かな自然と技術の共生がリーディング企業を産み出す テクノパーク 安曇野

~先端技術あふれる田園産業都市をめざして~

■安曇野市工業の8年後の目標

地域間競争の激化に勝ち残るため、まずは市内中小事業者の経営基盤強化を行い、その上で、企業間、農商工、大学等の教育機関、研究機関との連携による新たな分野の開拓、新技術の開発による取引機会の拡大、及び「安曇野」というブランド名の全国・世界市場への展開を目指します。また、市は景観や地域の特性に即した企業の誘致に努め、地域資源の活用や市内の企業間の連携促進を図ります。さらに研究開発機能を促し、製品の高度化・高付加価値化に繋げることを目指します。

これらを実現し、多くの人をひきつける豊かな自然環境の中、次代の安曇野市工業を支える中核となる担い手を育てていきます。

企業競争力の強化や新産業 創出を先導する、産業支援 機能の充実

既存事業の高付加価値化による、新たな産業集積の形成

- ○既存事業の高付加価値化促進支援
- ○異業種間連携を支援し、既存事業の高付加価値化を促進
- 地域間競争の激化に勝ち残る新産業の支援・先導

○社会構造の変化に対し、地域資源を活用した新産業創出の支援

企業ニーズを踏まえた生産 基盤整備展開による、田園 産業都市モデルの実現

きめ細かい企業ニーズへの対応

○経営基盤強化の支援

田園産業都市にふさわしい生産基盤整備

- ○既存事業所の拡充等の立地環境の整備支援
- 〇既存資源の有効活用と、田園環境に調和した産業団地の造成
- ○環境配慮型企業の取り組みへの支援

ものづくりの精神をはぐく み、技術と技能を継承・高度 化できる人材の確保・育成

企業ニーズを踏まえた技術者を確保・育成する地域協働体制づくり

- 〇地域協働体制の策定
- 〇企業ニーズに合った講習・セミナーの展開

次代の安曇野工業の中核的担い手を確保するための人材育成策の展開

- 〇市内小・中・高校生に対する体験学習の受け入れ促進
- O企業PRの支援

令和2年3月策定 計画期間:令和2年度~令和9年度

§ 方針4 安全で安心して快適に過ごせるまちづくり

人口減少の抑制には移住者の呼び込みは不可欠で、そのためには、良好な 環境を保ちつつ、より安全で安心して快適に暮らせる居住環境が必要です。

したがって、防災・減災、ハード・ソフトの両面から、想定外の自然災害にも適応できる安全なまちづくりと、高齢社会への対応や観光まちづくりの観点から、公共交通の利便性と歩行者や自転車の通行の安全性、快適性を高め、市民も来訪者も、安心と安らぎを享受できるまちづくりを進めます。

○まちの広がりと災害の危険箇所や防災拠点との関係及び安心して暮らせるまちづくりの観点から 重点的に取り組むべき事項

() 山地災害、水害等の被害が懸念される箇所の保全、居住地周辺の安全性の確保

年数の経過した木造家屋が多い拠点市街の都市施設の再整備、道路計画の見直し

5つの拠点市街と交通幹線軸、防災拠点施設を結ぶ輸送路の機能強化(水路、河川を横断する橋梁の耐震性の向上、道路の拡幅等)

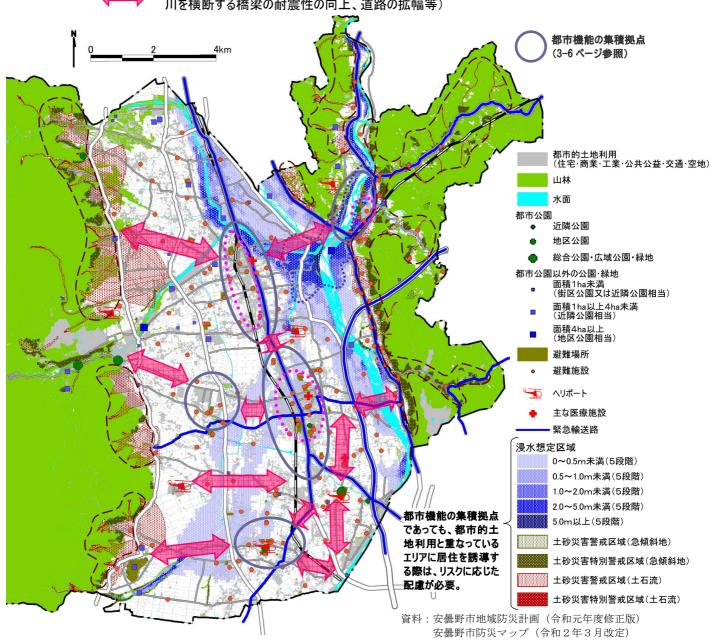


図 土砂災害及び水害の危険性と防災関連施設の整備状況

§方針5 各地域·地区の個性を活かして魅力を引き出す協働のまちづくり

本市は「安曇野」という1つの地域ブランドのもとにある一方で、行政区は5つの地域と83の区で構成され、それぞれに多彩な歴史的·文化的資源を有しています。そのため、都市機能の集約化を図りながらも、これらの資源を維持・継承するコミュニティや主体的な活動を支え、地域の個性を引き出し、磨いていくことも大切です。

したがって、各地域・地区等一定のエリアで、それぞれの場の特性や資源等を活かし、将来像を共有して、地域主体あるいは地域内外の多様な主体と連携して取り組むまちづくりの実践活動を推奨し、地域・地区の魅力を引き出す協働のまちづくりを推進します。

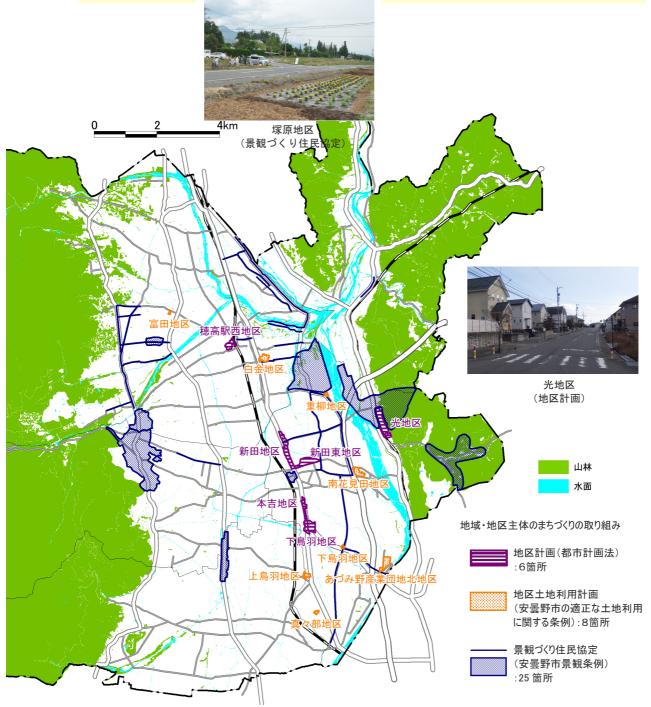


図 地区・地域が主体となっているまちづくりの取り組みエリア

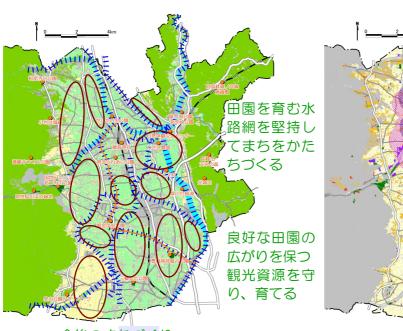
目指

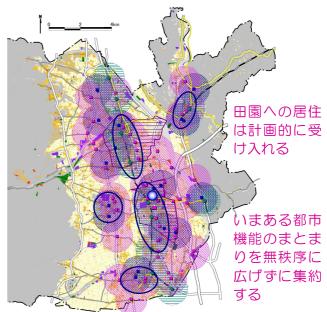
3.4 目指すまちの基本構造

本市は各地域の大小の集落が集まり良好な環境や多様な文化を形成してきたまちであることをふまえ、「既存市街·集落周辺への集約重視のまちづくり」を目指し、まちの基本構造とします。

雄大な山岳景観と豊かな田園風景を 未来に継承する

都市機能の秩序ある集約と有機的な 連携を図る





今後のまちづくり で環境の保全や配 慮をとくに意識す るエリアやライン

既存市街・集落周辺への

今後のまちづくり) のなかで魅力ある 環境の創出や集約 を推進するエリア





清らかな水、きれいな空気、冷涼な環境を育む山岳:森林の保全



土砂災害が懸念される山 地の環境保全



農地が広がり、水路が縦横に巡る田園環境の保全 既存の集落の拡散防止



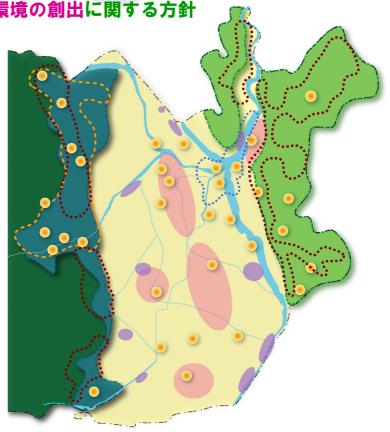
市街地内への都市機能の 誘導・集約 市街地の魅力の創出



産業団地・工業団地と周辺環境との調和 計画的な産業用地の確保



美しい景観、豊かな水や緑、味わい深い歴史·文化等に育まれた観光資源の保全·活用

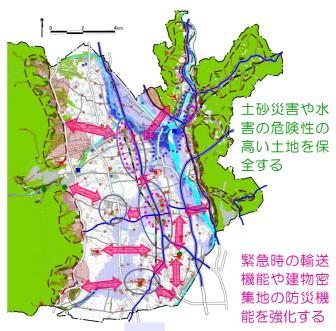


この基本構造を念頭に、暮らしの場である既存の市街・集落を維持しつつ、 無秩序な都市の拡散を未然に防ぎ、山岳と田園が育む魅力を保つことでさら なる成長につなげていく「発展の好循環」を次世代に継承していきます。

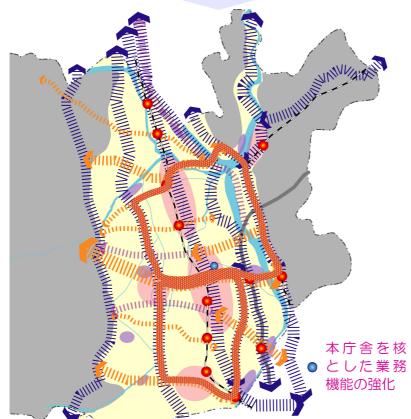
産業の継続的な発展を持続し、各地域・地区で育まれた個性を活かす

| The control of th

安全で安心して快適に過ごせるまち をつくる



集約重視のまちづくり



まちの骨格の形成に関する方針

旧町村の中心市街への優先的 な都市機能の誘導・集約

> 既存の産業団地·工業団地·工 業系用途地域の内部及びそれ らの周辺への新たな工場·事 業所の誘導・集約

集落付近へ集約する形での居 住ニーズの受け入れ

南北基幹軸として幹線道路の機能強化

 広域の都市圏とをつなぐ高速 道路の有効活用

東西基幹軸として幹線道路の機能強化

市街地間をつなぎ、循環する 幹線道路の機能強化

新たな幹線道路の整備による 基幹軸の機能強化

____ 南北方向に走る2本の鉄道の 有効活用

3-13

5つの拠点と新たな雇用の場を効果的につなげながら進める
 既存市街・集落周辺への集約重視のまちづくり

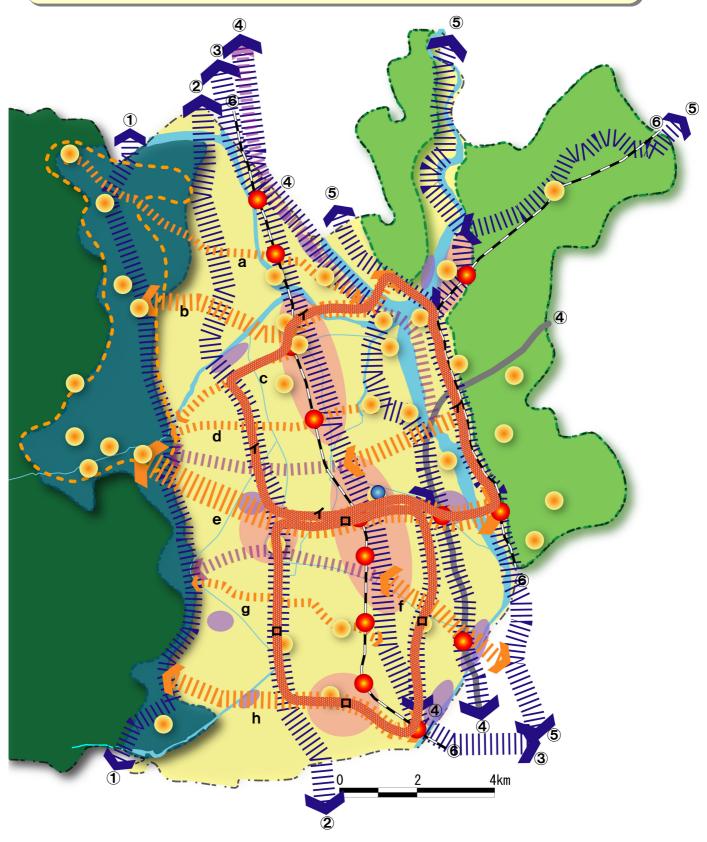


図 目指すまちの基本構造

についての基本的な考え方

■まちづくりの基盤となる環境(土地利用)

〇拠点市街地

都市機能の集約の拠点となる旧町村の中心市街

○産業集積地

産業集約の核となる一定の都市基盤の整った工場、事業所の集積地

○田園環境

広がりのある農地を保全していくことを基本として、その環境を著しく乱さない範囲 で、新たな居住を受け入れ、集落の維持・継承を図る田園環境

○西山山麓の森林環境

観光·保養地として、良好な森林空間の保全を図る西山山麓

○東山山麓・山間部の森林環境



既存の居住とその周辺一帯の森林環境を保全する東山の山麓・山間部

○山岳地帯の森林環境



北アルプスの峰々につながる森林環境を保全する山岳地帯



● 本庁舎 ● 観光拠点 💆 🔠 観光資源の集積エリア

連続する水辺空間

■まちづくりの骨格(都市施設)

「南北軸〕

①西山山麓基幹軸



北アルプスの山麓に連続する観光拠点や保養の拠点を結び、広域的な活性化につなげ る幹線道路

2田園集落基幹軸

市内の西側一帯に広がる田園集落における暮らしの環境を結ぶ幹線道路

3市街地基幹軸

都市機能の集積する2つの拠点市街(豊科・穂高)を結ぶ幹線道路

4広域交通基幹軸

(IIII) (IIIII ———

大都市圏への広域的なつながりをもつ安曇野 I.C.から南北方向に展開する幹線道路

⑤東山山麓・山間基幹軸

県内の拠点都市(北は長野市、南は松本市)へ接続する幹線道路

6鉄道軸

南北を結ぶ公共交通の基幹軸となる JR 大糸線・JR 篠ノ井線

〔東西軸〕

a.c.d 穂高地域補完軸

(1111)

西山山麓を中心に各所に散在する観光資源を相互に結ぶ幹線道路

b 北部基幹軸

・穂高の拠点市街と明科の拠点市街を相互に結ぶ市内北側の幹線道路

e.f 中央基幹軸

豊科の拠点市街、堀金の拠点市街を介して、南北5軸を相互に結ぶ複数の幹線道路

g 堀金·豊科地域補完軸

CITTLE

堀金地域と豊科地域を結び、南北軸を経て松本市方面に通じる幹線道路

h 南部基幹軸

三郷の拠点市街を介して、西山山麓と松本市街を相互に結ぶ市内南側の幹線道路

〔循環軸〕

イ 北部循環軸

豊科、明科、穂高、堀金の各拠点市街を相互に結ぶ幹線道路

口 南部循環軸

豊科、三郷、堀金の各拠点市街を相互に結ぶ幹線道路

